

よりよい校風を作る 球技大会

今日（12月10日）は後期校内球技大会が行われました。スポーツを通してルールやマナーを守る態度を学ぶこと、クラスや仲間との交流、教職員との連携を図り、チームワークや協力する姿勢を学ぶことを目的に実施されました。今回はそれぞれの競技における見所や工夫したところ、狙いなどが明確に示され、試合形式も様々に工夫され実施されました。試合の方向や見所などは以下の通りです。

男子のバスケットボール

○予選の2試合を通して、なるべく全員を出す！チームの団結力！

【見所】予選は各学年のリーグ戦により10人以上が必ず出場することを通じた戦いでクラスの団結力が試される。

○各クラスの猛者VSバスケ部！バスケ部はハンディマッチを乗り越えられるか！

○短いプレイタイムでいかに力を発揮できるか！テスト明けの冬の到来に適応できるか！

○3年VS1・2年の下克上決勝トーナメント！

女子のバスケットボール

○今年はドッジボールをメインとする女子の球技大会で、バスケットを選ぶ女子のメンタル強し！

○各学年の代表が1チームを作り、男子とはひと味違う選りすぐりのバスケ女子たちがコートに華を咲かせる学年対抗マッチ。

【見所】昨年のディフェンディングチャンピオンである3年1組を中心に構成された3年生に対して、多数経験者のいる2年生、勢いのある1年生がどこまで対抗できるかが見所だ。審判はバスケットボール部中心に行い、昨年より試合数が少ないので、質の高いジャッジが行えるはず…！

女子のドッジボール

○一度に10人を超える生徒が活動し（原則14対14）、さらに運動量確保のため大小2個のボールを使って独自のルールで今年から授業において採用した競技！ヒートアップする女子が続出したが、激しい中にもルールやマナーをしっかりと守る態度を授業で学んだ。その力が試される！

【見所】ソフトバレーボールとバランスボールの2個のボールを使った邇摩高特別ルールで行う。常に油断せず、キョロキョロと周りを警戒することや、チームで声を掛け合って危険を察知することが重要なスキルだ。審判は各クラスの男子体育委員又は野球部員が行う。ボールごとに審判が付き、アウトかセーフかをはっきりとジャッジし、競技する女子たちの迷いを断ち切って、より安全でハードな試合展開になることを狙う。

生徒たちは楽しみながら、協力しながら楽しんでいました。

この球技大会のように、学級や学年などの集団で協力して行う活動は、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して身につけたことを行かして、学校や社会への所属意識を持ち、多様な他者を尊重し、協働してよりよい生活づくりに参画するための連帯感を育成することができます。これらの活動を通して、邇摩高校としてのよりよい学校文化や伝統をつくり、生徒の愛校心につながってくれることを願っています。

